

# うえなえ

Vol.406 2022.3



新設された地域医療連携室

## 社会医療法人こぶし 法人新体制について 法人運営本部長 大釜 薫

社会医療法人こぶしでは3月1日付で看護部、4月1日付で医局の人事が変更になります。新人事についてと、これから法人について、大釜法人本部長に聞いてみました。

広報委員：今回行われる看護部と医局の人事について、この時期に変える理由や狙いなどを教えてください。

大釜部長：大きな理由として新しい病院に向けての準備と考えています。この先必要となる組織改革や人事、検討事案については、全て新病院を想定して検討する事になります。具体的には3月1日から私が法人本部長専従となり、看護部長は5病棟師長莊司都恵さんが兼任します。また新設された『地域医療連携室』の室長を岡田雄一さんが、法人全体の外来

を統括する役割を大久保静香さんが担うことになりました。そして4月1日からは片岡昌哉理事長が柳町診療所院長、高木果現副院长が植苗病院院長という体制になります。

広報委員：『地域医療連携室』が新設されるということですが、こちらの意義や役割などについてもお願いします。

大釜部長：当法人は柳町診療所や千歳こぶしクリニックなどのサテライトクリニックを有していた事から、長年にわたりサテライトの入院窓口を看護部長と副部長、サテライト以外の入院窓口を医療相談課の精神保健福祉士たちが業務の一つとして担っていました。これも新しい病院に向けての改革となります。サテライトの診療体制が統合されるため、役割分担していた窓口機能を『地域医療連携室』で一本化を図り、業務の効率化および外来受診や入院について、よりスムーズに受け入れられるよう体制を整える目的で新設しました。4月からは看護師2名と専従の精神保健福祉士1名で運営していきます。

広報委員：最後に社会医療法人こぶしのこれからについて一言お願いします。

大釜部長：昔も今もこれからも、目指すべき大きな目標や方向性は変わっていないと思います。地域に根ざし、必要とされる医療を提供するのが私たちの役目だと考えています。今後法人内外の意見を集約しながら、精神医療のあるべき姿を模索し、地域で必要とされる支援を構築していきたいと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願ひいたします。



電子カルテ導入サービスキックオフ会議



江別すずらん病院  
看護部 急性期2階病棟課長  
田中 昭男さん

最終回は、これまでとは違い「広い意味での連携」ということで「北海道アルコール看護研究会」（通称アル研）という任意団体で活動をしている当院看護師の土居師長と江別すずらん病院看護師の田中昭男さんとの三者会談を2回に分けてお送りいたします。

広報委員：先ず土居看護師より「アルコール看護研究会」（以降、アル研）について教えてください。

土居師長：「アルコール看護研究会」は1994年から、アルコール依存症に携わる道内の有志の看護師が中心となり発足しました。年に1～2回の研修を開いたりしていますが、全国規模の日本アルコール看護研究会の北海道ブロックとしても位置付けられています。特徴としては、会費は徴取しておらず、参加者の草の根的なつながりを意識しており、支援者同士の「自助グループ」のような役割を持っています。

広報委員：田中さんも2017年度の日本アルコール看護研究会・北海道大会がきっかけだと土居師長から聞きしましたが？

田中さん：そうなんです。私は1997年に東京の町田から北海道に来て2012年現職場の江別すずらん病院の立ち上げ時に来て現在に至っています。以前より、外部とのつながりを持ちたい、院内だけに留まってはいけないと感じておりましたが、どう活動していいか模索していました。そんな時、当時大会事務局をしていた土居さんに声を掛けてもらい「これは、チャンスだ」とポスターセッションの参加と同年に当病院で当会の研修会を開催してもらうことにも至りました。本当にこの出会いには感謝しています。

土居師長：あの時の田中さんの印象がとても強く残っていて今回も田中さんの顔がすぐに浮かびました。研修会も同病院の福場先生に「基礎講座」の講師をして頂き、沢山の看護師さんにも参加してもらいましたよね。

田中さん：とにかく「つながりたい」「病院をアピールしたい」という気持ちだけでした。福場先生や病棟の協力もあったおかげです、本当に感謝しています。

広報委員：実際にアル研参加するようになっていかがですか？何か変化はありましたか？

田中さん：とにかく、参加すると元気になるんです。どうお伝えしていいかわからないのですが、時には自分のやっていることやARP（同病院では「アルコール依存症治療プログラム」）や患者さんの関わりを任されることに孤独感やプレッシャーを感じことがあるんです。そんな時、別の病院で同じ状況にいる支援者との交流はとても元気づけられるんです。また、「職種が違っても分け隔てなく一緒に考えてやっていこう」という「仲間」という考え方を持つようになったことでしょうか？そして、1年前に上司から「アルコール会議をしよう」と提案され、その会議の積み重ねで現在ホームページに「お酒の相談窓口」というコーナーも掲載されています。

→ 次回に続く

## 活動報告

## 千歳こぶしデイケア

26年の歴史に幕を閉じた千歳こぶしデイケアの様子です。沢山物があって手狭に感じていましたが、何もなくなるとこんなに広かったようです。1997年から長い間お疲れ様でした。



## 農耕活動（植苗病院）

農耕活動では冬の間ヒヤシンスの観察をしています。コロナ禍の影響で、皆で集まっての活動は出来ていませんが、それぞれが今はヒヤシンスの球根の観察をしながら春を待っている状況です。早く皆で綺麗な花を見れる日がくるといいですね。

去ってほしい  
コロナの鬼に  
豆づけ  
★立幸

冬の旅  
夕暮れ時に  
宿について  
★



目が悪くなった。小学校高学年までは両眼1.5で遠くまでしっかり見えていた(はず)。もちろん澄み切った目をしていた(と思う)。姿勢の悪さが祟ってか中学に入って視力低下が進み眼鏡を使用するようになった。近視は長い付き合いになつたが10年前から近くが見えにくくなり老眼が重なる事になった。その頃先輩に遠近両用について話を聞くと、遠近以外に中近も用意してると聞きそんな必要もあるのかとびっくりしたことがあった。その内遠近でも見えにくくなり眼

鏡屋に行くと眼科に行くように言われ、眼科に行くと正常眼圧緑内障だと診断された。これは僕の理解では眼圧を下げるという事にどれだけ治療効果があるのか分からない緑内障のようで、にも関わらず眼圧を下げる以外治療法もないらしい。こうして近くも遠くも見えにくくなっていく。視野検査もここが見えてませんねと宇宙の暗黒物質のような領域が指摘され暗澹たる気分になるばかりである。これもまた最近頓に感じる老いのリアルの一部だろう。しかしこのまま失明して盲目の精神科医となつたら周囲に大層負担はかけるけれど、ちょっと格好良いんじやないかと思つたりもする。「盲目の精神科医」ってなんか良くないですか。

(M.K)

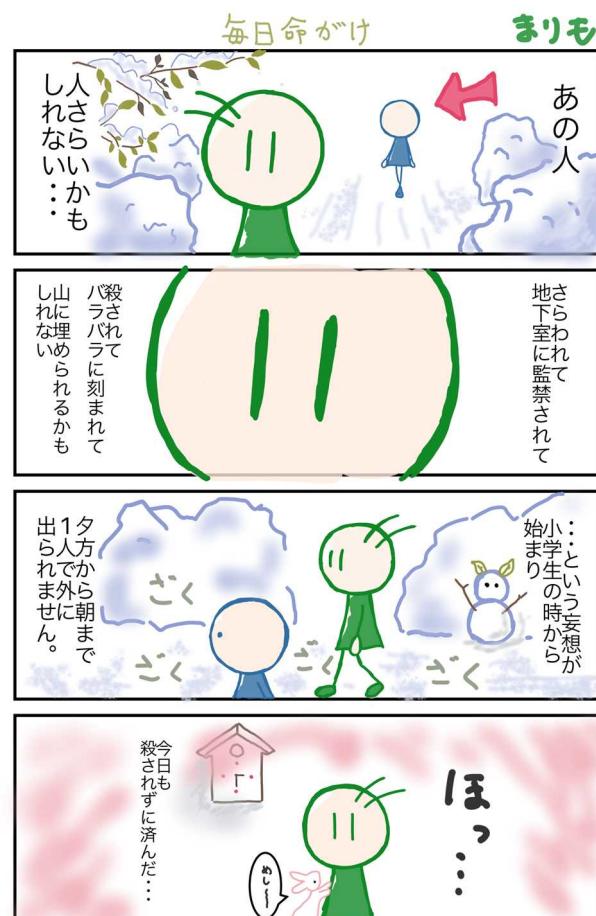
## お知らせ

## ◆ 外来変更のお知らせ ◆

2022年4月1日（金）より社会医療法人こぶし外来担当医が下記のように変更になります。外来をご利用されている皆さまには大変ご不便をお掛けいたしますがよろしくお願ひいたします。ご不明な点がございましたら植苗病院受付にご確認ください。

		月	火	水	木	金
植苗病院 精神科	午 前	高木※ 川 並	阿 部	高 木	高 塚	河 野
	午 後	-	阿 部	高 木	高 塚	-
柳町診療所	午 前	片 岡	望月※ 小 熊	片 岡	片 岡	片 岡 小 熊
	午 後	片 岡	望月※ 小 熊	片 岡	片 岡	片 岡 小 熊

※は予約制となっておりますので、詳しくは各外来にお問い合わせください



病む人と出会い  
病む人を支え  
病む人に学ぶ

発 行  
社会医療法人こぶし広報委員会  
苦小牧市字植苗52-2  
TEL:0144-58-2314  
<http://www.uenae-hp.or.jp/>



看板が埋まりそうでした

## &lt;後記&gt;

今年は雪、雪、大雪、の冬となっていますね。雪遊びよりも除雪や無事に通勤できるかなどの現実的な心配ばかりする自分がおります。スコップを車内に常備しながら運転する毎日です。

(K)